３／１０　校長室より №186

　卒業式での全校合唱は４年ぶり。選んだ曲は『旅立ちの日に』。卒業ソングの定番です。前回までは学年ごとに練習をしてきましたが、今日からは全校生での練習になりました。

　この『旅立ちの日に』について、以前１年１組（担任は音楽担当の岩瀬教諭）の学級通信№33･34 に取り上げられていたので、生まれたエピソードや歌詞に込められた思いなどを転載します。

№33

　ところで、卒業式と言えば「旅立ちの日に」ですが、みなさんはこの曲についてどのくらい知っていますか？正直、私も深くは考えたことがなかったので、調べてみました。

「旅立ちの日に」

１９９１年に埼玉県の中学校の校長先生だった小嶋登さんの作詞と、音楽教諭だった坂本浩美さん（現：高橋浩美さん）の作曲によって生まれました。

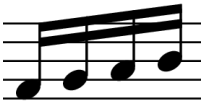
名曲が生まれたエピソード

秩父市立影森中学校の校長だった小嶋先生は当時、荒れていた学校を矯正するため、「歌声の響く学校」にすることを目指し、合唱の機会を増やしました。最初こそ生徒は抵抗しましたが、音楽科教諭の坂本先生と共に粘り強く努力し続けた結果、歌う楽しさによって学校は明るくなりました。

「歌声の響く学校」を目指して３年目の１９９１年２月下旬、坂本先生は「歌声の響く学校」の集大成として、「卒業する生徒たちのために、何か記念になる、世界に一つしかないものを残したい！」という思いから、作詞を小嶋先生に依頼しました。「そんなセンスはないから･･･」と１回は断られましたが、翌日、坂本先生の机には書き上げられた詞が書かれていました。その詞を見た坂本先生は感激し、授業の空き時間に音楽室にこもり、楽曲製作に取り組みました。すると、次々と旋律が湧き出るように思い浮かび、実際の楽曲製作に要した時間は１５分程度だったといいます。

出来上がった曲は、「３年生を送る会」で教職員たちから卒業生に向けてサプライズとして歌われました。その翌年からは、生徒たちが歌うようになったそうです。

秩父市におけるモニュメント（記念碑）など



- 影森中学校の校内には、「旅立ちの日に」の歌碑があるそう。
- 秩父アミューズメントパークには、「旅立ちの丘」として展望デッキを備えた施設があり、影森中学校の生徒によるコーラスが流れる仕掛けになっているんだって！

こうやって「旅立ちの日に」が生まれたエピソードを知ると、この曲をますます大切に歌っていきたいな･･･という気持ちになりますよね♪

No.34

今回は、歌詞に触れてみたいと思います。

『旅立ちの日に』　小嶋　登 作詞 ／ 坂本　浩美 作曲

一．　白い光の中に　山なみは萌えて
遥かな空の果てまでも　君は飛び立つ
限り無く青い空に　心ふるわせ
自由を駆ける鳥よ　ふり返ることもせず
勇気を翼にこめて希望の風にのり
このひろい大空に夢をたくして

限りなく青い空･･･
希望に満ちあふれた未来のことかな？

鳥･･･卒業する君
「勇気を持って飛び立ってほしい！」「過去を振り返ることをせずに自由に進んでいってほしい」 という願いなのかもね

二.　懐かしい友の声　ふとよみがえる
意味もないいさかいに　泣いたあのとき
心かよったうれしさに　抱き合った日よ
みんなすぎたけれど　思い出強く抱いて
勇気を翼にこめて希望の風にのり
このひろい大空に夢をたくして

いま、別れのとき
飛び立とう未来信じて
※弾む若い力信じて
このひろい
このひろい大空に

※繰り返し

「決意」でもあり、「願い」でもあるよね！

別れを惜しむだけでなく、未来を信じて、卒業後それぞれの道に進んで行ってね･･･というメッセージなのかな

作曲者、高橋浩美先生のコメント

この歌を歌う時にはいつも、**「ありがとうの歌なんだよ」**という話をします。私が作曲した時、一緒に育った卒業生や地域の人、仲間の先生たちへの感謝の思いがすごくありました。だからたった１５分で曲が生まれたんです。**自分が思う「ありがとう」を胸の中に置いて、それをちゃんと歌で伝えきった時にあなたたちの責任が果たせるんだよ**、ということを生徒たちに伝えるんです。そ**の思いを伝える方法として、細かい歌の技術や表現の工夫があるというのが正しい形**だと思っています。

みんなにも、この曲を歌う時には「先輩方、今までありがとう」の気持ちをもって歌ってほしいです。